

## 岩手県海域における温暖化の現状について

ねらい:	漁業指導調査船「岩手丸」を用いて実施している定線海洋観測結果から、岩手県地先の長期的な水温変動傾向を明らかにする。
成果の特徴:	過去42年間の定線海洋観測結果によると、表面および100m深において統計的に有意な水温の上昇傾向は認められず、沖側の定点を中心として低下傾向が確認された。また、統計的に有意ではないものの、県北部沿岸および県南部沿岸の表面と県北部沿岸の100m深で僅かな水温上昇傾向が見られた。
成果の活用:	沖側の定点における水温低下傾向が温暖化進行の途中経過であることも考えられることから、今後も定線観測を継続して実施し、本県海域における温暖化の進行状況を見守ることとする。

### [具体的データ]

漁業指導調査船「岩手丸」で実施している定線海洋観測(図1)の結果のうち、昭和41年1月から平成19年12月までの42年間(504ヶ月分)の表面および100m深の水温から年偏差を算出し、その年偏差と年(昭和41年を1年目)の一次回帰分析を行った。

#### (1) 表面の水温変動傾向

トドヶ埼定線の30~40海里、尾埼定線の20~50海里で42年間に1.4~1.9℃程度の統計的に有意な水温低下が示された。また、統計的に有意ではないものの、黒埼定線の20~50海里、トドヶ埼定線の5~20海里および50海里、尾埼定線の0~10海里、椿島定線の10~50海里で0.1~1.3℃程度の低下傾向が見られ、逆に、黒埼定線の0~10海里、トドヶ埼定線の0海里、椿島定線の0~5海里で0.2~0.4℃の上昇傾向が見られた。

検討に用いた28調査地点のうち、22調査地点で低下傾向、6地点で上昇傾向にあった。

#### (2) 100m深の水温変動傾向

黒埼定線の20~50海里、トドヶ埼定線の10~50海里、尾埼定線の20~50海里、椿島定線の20~50海里で42年間に1.4~3.5℃程度の統計的に有意な水温低下が示された。また、統計的に有意ではないものの、黒埼定線の10海里、トドヶ埼定線の5海里、尾埼定線と椿島定線の5~10海里で0.1~1.0℃程度の低下傾向が見られ、黒埼定線の5海里で僅かな上昇傾向が見られた。検討に用いた24調査地点のうち、23地点で低下傾向にあった。



漁業指導調査船「岩手丸」

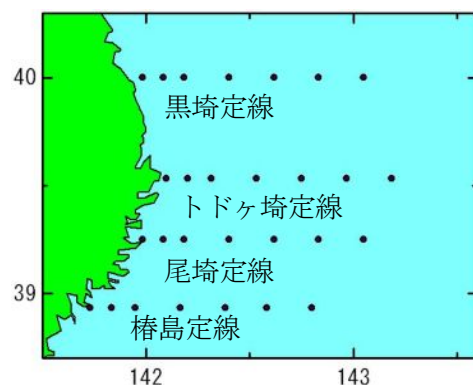


図1 定線観測位置

担当者 連絡先	漁業資源部 主任専門研究員 小川元 〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/">http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/</a>	TEL0193-26-7915 FAX0193-26-7920
------------	--	------------------------------------